国土技術政策総合研究所委託研究アドバイザリー会議

議事概要

１．開催日時

令和 7 年 3 月 11 日（火）14:00～17:00

２．開催方法

WEB 会議

３．委託研究課題名

１）流域デジタルツインにおけるデータ連携技術に関する研究開発

建設技術研究所・富士通　共同研究体　　研究代表者　小澤　剛

２）流域デジタルツインを用いた流域治水の自分事化支援ツールに関する研究開発（その１）

奈良先端科学技術大学院大学　　研究代表者　加藤　博一

３）流域デジタルツインを用いた流域治水の自分事化支援ツールに関する研究開発（その２）

パシフィックコンサルタンツ株式会社　　研究代表者　飯田　進史

４．議題

１．委託研究アドバイザリー会議について

２．委託研究概要説明

３．成果報告会および委託研究への助言・コメント

５．委員からの意見

委託研究１）研究の進捗状況および継続実施の妥当性

- 研究の進捗状況は概ね優れており、継続実施は妥当であるとの意見があった。
- 当該分野の具体的なデータ、プログラムを前提に、十分なデータ連携要求仕様書が作成されているとの意見があった。
- 全体的には非常に詳細な分析から具体的な試行環境での検証を進めており、研究進捗については十分に評価できる一方で、1 つのユースケースを中心とした標準形では他のユースケースで障害となる「潜在的リスク」を示す必要があると意見があった。
- データ連携による効率化および操作性向上は企業側としてもメリットが大きいため、データ連携が新しいビジネスチャンスの創出に貢献することを期待したいとの意見があった。
- 標準化を求める余り、一般的な GIS データ管理メタデータとなっているように思えるので、流域デジタルツイン特有の要件が見えるとより良くなるとの意見があった。

委託研究２）研究の進捗状況および研究成果の国総研による今後の展開について

- これまでは平面的な表現であった洪水ハザードリスクが、より理解しやすい形で表現され、研究進捗は非常に優れているとの意見があった。
- 現時点での最先端 AR, VR を用いて洪水・浸水を市民に伝える IT ツールの開発に成功しており、今回の研究開発経験を今後の流域治水のデータ連携高度化などにもぜひ活用してもらいたいとの意見があった。
- より一般的な活用（社会普及）へとつなげるためには資機材の課題もあると思うが、将来には汎用化されると期待し、インターフェースの高度化を通じたリスクコミュニケーションが進むことを期待しているとの意見があった。

委託研究３）研究の進捗状況および研究成果の国総研による今後の展開について

- 流域治水にかかるデジタルデータに対して様々な表現で可視化を行い、「学び」の点を整理した上で地域と連携し防災教育に展開しており、研究進捗は非常に優れているとの意見があった。
- 包括的な調査をベースとして、流域治水の自分事化支援ツールのプロトタイプの作成に成功しており、小学生教育への活用も興味深いとの意見があった。
- 流域治水の詳しい仕組みより、ポイントを絞って学習にアプローチすることで、子供であっても大きな学びを得たと考えられる点においても高く評価できるとの意見があった。
- よりインタラクティブな仕掛けにより高度な学びが得られると思われるので、今後の研究の発展・社会実装に期待しているとの意見があった。

国土技術政策総合研究所委託研究アドバイザリー会議
委員一覧

委　員：

東京科学大学　環境・社会理工学院　土木・環境工学系　教授　　鼎　信次郎

富山大学　学術研究部　都市デザイン学系　准教授　　井ノ口　宗成

（順不同・敬称略）

※所属・役職は開催当時